

スケジュール

		時間																				
		7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20							
3日(金)	会場	大会事務局(一部クローク)																				
	講義棟	1番教室																				
	講義棟	2番教室(40人)																				
	講義棟	4番教室(90人)																				
	総合研究棟	E2501・E2502																				
	総合研究棟	E2503																				
	総合研究棟	吹き抜け																				
	講義棟	21番教室																				
	野外																					
	4日(土)	講義棟	1番教室	大会事務局																		
講義棟		4番教室(90人)																				
講義棟		3番教室(70人)																				
講義棟		23番教室(70人)																				
総合研究棟		E2501・E2502																				
講義棟		2番教室(40人)																				
総合研究棟		E2503																				
総合研究棟		吹き抜け																				
講義棟		21番教室																				
野外																						
5日(日)	講義棟	1番教室	大会事務局																			
	講義棟	4番教室(90人)																				
	講義棟	3番教室(70人)																				
	講義棟	23番教室(70人)																				
	講義棟	5番教室(180人)																				
	講義棟	2番教室																				
	総合研究棟	E2503																				
	総合研究棟	吹き抜け																				
	講義棟	21番教室																				
	野外																					
		大会事務局																				
		TS2: 東北地方の大型獣管理																				
		TS3: 民間組織																				
		TS4: 行政部会																				
		TS5: 野生動物の管理																				
		TS6: これからの森づくり																				
		ポスター発表																				
		ポスター発表																				
		クローク																				
		休憩室																				
		企業ブース																				
		託児室																				
		総会																				
		青年部 会総会																				
		公開シンポジウム																				
		懇親会																				
		エクスカーション(保全対策)																				
		エクスカーション(ナキウサギ)～6日																				

会場アクセス

1) 大会会場 帯広畜産大学 〒080-8555 北海道帯広市稲田町西2線11番地



2) 帯広畜産大学までのアクセス方法

〈バス利用〉

帯広畜産大学方面へのバスは帯広駅前から発車していますが、大会期間中は休日・祝日ですので、大学周辺に停車するバスは4路線に限られます。

また、各路線とも便数は少ないので、バス会社の時刻表をご確認いただき、余裕をもった利用をお願いします。なお、帯広駅前から大学近傍のバス停までは約30分かかります。

【十勝バス HP <http://www.tokachibus.jp/>】

①② 循環線	「北高・北斗病院前」	約30分に1本
⑦⑩ 大空団地線	「緑陽高校前」	約30分に1本
⑥⑨ 広尾線	「北高・北斗病院前」	1～2時間に1本
⑦③ 自衛隊・稲田線	「農業高校正門北」	1～3時間に1本

〈自動車利用〉

帯広駅前からは国道236号を利用するとわかりやすいです。国道を南進し、「西6南41」の信号を右に曲がり直進、「西19南42」を左に曲がると右手に大学正門がみえてきます。

駐車場は、正門から入り左手にある「本部棟」前にある外来用駐車場もしくは正門の一つ手前に入り「かしわプラザ」裏にある外来用駐車場をご利用ください。

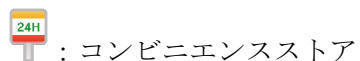
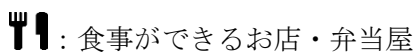
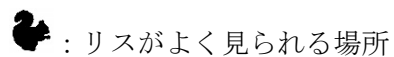
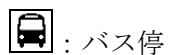
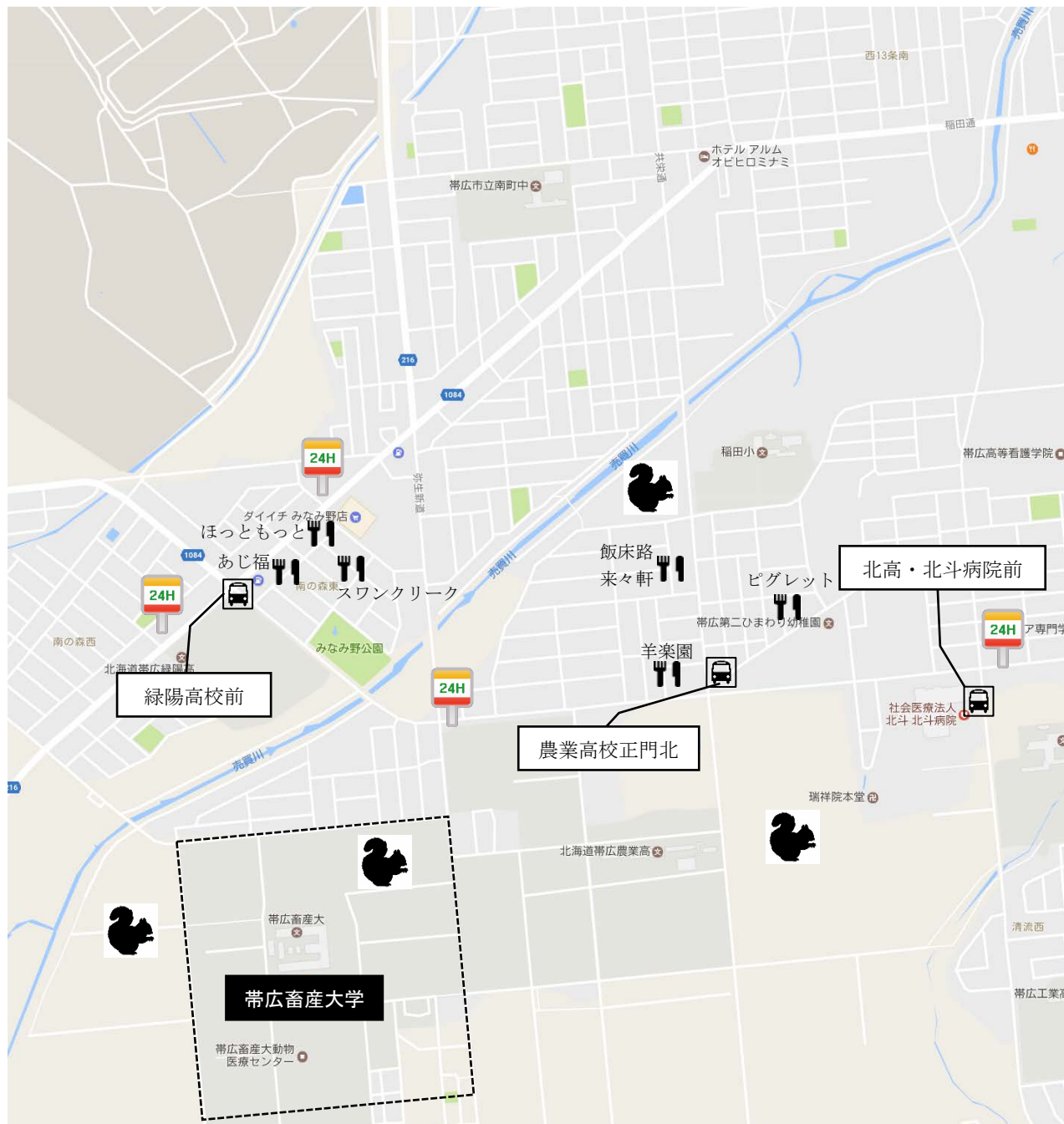


[illegible]

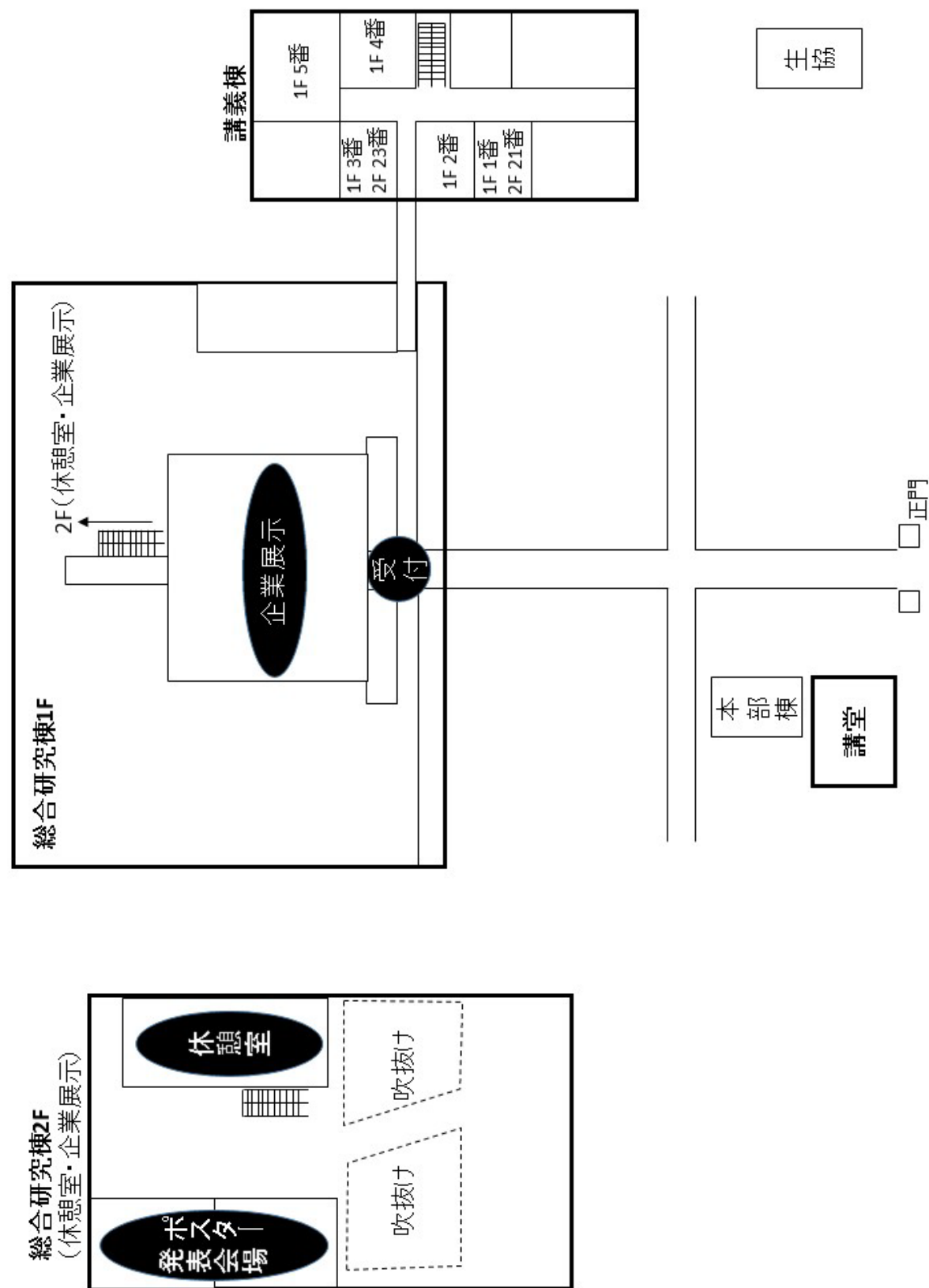
※駐車場は本部棟前もしくはかしわプラザ裏の外来駐車スペースをご利用ください。

大学周辺マップ

どのバス停も大学からは離れていますので、時間に余裕をもって利用してください。また、食事ができる場所も限られているため、コンビニエンスストアなどの利用をお勧めします。



フロアマップ



参加者へのご案内

大会会場は帯広畜産大学ですが、懇親会は大学生協で行ないます。詳細は以下の案内、プログラム、キャンパスマップやフロアマップをご確認ください。

1) 受付

場所：総合研究棟 玄関

日時：11月3日 11:30～18:30

11月4日 8:00～15:00

11月5日 8:00～10:00

2) 大会本部

場所：講義棟 1 番教室

日時：11月3日 11:30～20:00

11月4日 8:00～18:30

11月5日 8:00～12:00

3) クローク

場所：講義棟 2 番教室（3 日のみ 1 番教室）

日時：11月3日 12:30～20:00

11月4日 8:00～18:00

11月5日 8:00～12:00

4) 休憩室

場所：総合研究棟 E2503

日時：11月3日 13:00～18:30

11月4日 8:00～18:00

11月5日 8:00～12:00

5) 託児室

場所：講義棟 21 番教室

日時：11月3日 13:00～20:00

11月4日 8:00～18:30

11月5日 8:30～12:30

6) 各種委員会・部会

- ・フォーラム誌編集委員会：11月3日（14:00～15:30） 講義棟4番教室
- ・学会誌編集委員会：11月3日（14:00～15:30） 講義棟2番教室
- ・行政部会幹事会：11月3日（13:00～14:00） 講義棟2番教室
- ・青年部会幹事会：11月3日（13:00～14:00） 講義棟4番教室
- ・理事会：11月3日（15:30～17:00） 講義棟2番教室
- ・青年部会総会：11月4日（14:00～14:30） 講堂
- ・行政部会総会：11月5日（8:30～9:00） 講義棟3番教室

7) 総会

場所：講堂

日時：11月4日 13:00～14:00

17:00 18:30

8) 公開シンポジウム

本大会では、農業王国十勝での開催にちなみ、十勝地方の自然環境の現状と今後の共存に向けたテーマで公開シンポジウムを開催します。入場は無料ですので、どなたでも参加可能です。

場所：講堂

日時：11月4日 15:00～18:00

「とかちの自然と人の暮らしー自然への影響と共存に向けて」

9) 大会実行委員会・青年部会企画 「学生と社会人をつなぐ座談会」

本大会では、これからの社会を担っていく学生が今を支えている社会人と意見交換できる場所を提供するための座談会を開催します。「野生生物」と「社会」に関わる社会に出る際のヒントをみつけてもらえると幸いです。

場所：講義棟4番教室

日時：11月3日 18:30～20:00

10) 懇親会

場所：大学生協

日時：11月4日 18:30～20:30

11) 企業展示ブース

総合研究棟 1 号館の 1 階（吹抜け）において、以下の企業・団体による展示が予定されています。（五十音順、太字は賛助会員）

- ・株式会社 アイエスイー
- ・株式会社 構研エンジニアリング
- ・株式会社 三生
- ・株式会社 GISupply
- ・株式会社 末松電子製作所
- ・株式会社 ハイク
- ・ファームエイジ 株式会社

12) その他

- ・大学周辺には食堂やレストランがほとんどありません。お弁当を準備していただくか、近くのコンビニエンスストアをご利用いただくことをお勧めします。大会期間中の大学生協の営業は 4 日（土）のみで、時間も限られております（食堂 11:00～13:30、購買 10:00～13:00）。
- ・大会会場ではインターネット環境の提供はありません。
- ・大学内は基本的に禁煙ですので、喫煙は所定の場所をお願いします。
- ・帯広畜産大学から 3km ほど離れた場所にある「**おびひろ動物園**」は、11 月 5 日（日）が夏季開園の最終日です。**5 日は入園料が無料**ですので、ぜひご利用ください。

発表者へのご案内

本大会の研究発表は、テーマセッションとポスター発表で行なわれます。発表時間や場所についてはスケジュールやプログラムをご確認ください。

1) テーマセッション

企画者は時間厳守をお願いします。

会場にはスクリーンとプロジェクタが用意されていますが、パソコンやポインターなどは企画者側でご用意ください。また、機材操作や司会進行、後片付けは企画者が責任を持って行なってください。なお、不明な点や機器の不具合などについては大会事務局までお知らせください。

場所：講義棟（3 番教室、4 番教室、5 番教室、23 番教室）

日時：11 月 3 日 17:00～20:00

11 月 4 日 8:30～11:30

11 月 5 日 9:00～12:00

2) ポスター発表

- ・ 掲示時間：掲示時間と場所はプログラムをご確認ください。発表者は4日の11:00までに掲示を終えてください。また、ポスターの撤去は17:15までに終えてください。残っているポスターは大会事務局が撤去・廃棄します。
- ・ 掲示方法：縦180cm、横90cmのパネルにポスター番号が記載されていますので、要旨集で記載されているポスター番号と同じ場所にポスターを掲示してください。掲示用の画鋏とテープは事務局で用意します。
- ・ ポスター賞：ポスター賞に応募された発表については、第23回大会の選考委員による審査がありますので、コアタイムには必ず発表をしてください。ポスター賞の受賞者は11月4日の懇親会で発表し、授賞式を行ないます。

場所：総合研究棟（E2501、E2502）

日時：11 月 3 日 13:00～18:00

11 月 4 日 8:30～17:00（コアタイム 11:30～12:30）

公開シンポジウム

『とかちの自然と人の暮らしー自然への影響と共存に向けて』

日時：2017年11月4日（土） 15:00～18:00

会場：帯広畜産大学 講堂

第 23 回「野生生物と社会」学会大会 公開シンポジウム

「とかちの自然と人の暮らし—自然への影響と共存に向けて」

人の活動はさまざまな面で野生生物に影響を与えており、種の減少・絶滅の主要因となっています。一方、クマやシカなど大型動物との軋轢も全国で発生しており、野生生物の「保全」と「管理」の両立は将来の野生生物との共存にあたって重要な問題です。

しかし、その現状は地域の自然環境や産業、住民の意識といった特性によって大きく異なっており、対応策も多様です。本大会の開催地である北海道十勝地方は、面積約 1 万平方キロという都府県レベルの広さに、約 35 万人が生活しています。また、十勝地方は年間約 400 万人分の食料を生産する日本の食料庫である一方で、市街地や農耕地にもヒグマやシカなどの大型獣が出没し、タンチョウやオジロワシなどの希少種が生息もしています。

農業王国とかちに暮らすわれわれが、今後これらの生き物とどのように関わっていくべきなのでしょう？ 過去を振り返り、現状を知り、将来を考える場として公開シンポジウムを開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

プログラム

15:00～15:10 開会の挨拶・趣旨説明

柳川 久（帯広畜産大学・副学長、大会長）

15:10～15:50 基調講演 1

「十勝の景観と野生動植物保護—それを守るヨーロッパの農業環境スチュワードシップ」

紺野康夫（元帯広畜産大学）

15:50～16:30 基調講演 2

「野生動物との共存と市民協働」

和田哲也（アークコーポレーション株式会社）

16:30～16:50 学生講演

「街の生き物研究から考える野生動物との付き合い方」

内田健太（北海道大学 環境科学院 博士課程・日本学術振興会 特別研究員）

16:50～17:00 休憩

17:00～18:00 パネルディスカッション（座長：柳川 久）

パネリスト

紺野康夫（元帯広畜産大学）

和田哲也（アークコーポレーション株式会社）

宮崎広幸（北海道 十勝総合振興局）

日月 伸（帯広の森 はぐくむ）

澤田誠吾（島根県中山間地域研究センター）

水田 拓（環境省 奄美自然保護官事務所）

テーマセッション

テーマセッション

11月3日（土） 17:00～20:00 講義棟

TS-01 17:00～20:00 〈2 番教室〉

先進技術だけでは捕獲は進まない？～効率的捕獲のための技術運用と社会システムを考える～

企画者 山端直人・平田滋樹・鬼頭敦史

11月4日（土） 8:30～11:30 講義棟

TS-02 8:30～11:30 〈4 番教室〉

東北地方における大型獣管理の現状，課題，展望

企画者 梶 光一・江成広斗

TS-03 8:30～10:00 〈3 番教室〉

民間組織による「野生動物保全と観光開発」の現在—アフリカから日本を考える

企画者 西崎伸子

TS-04 10:00～11:30 〈3 番教室〉

行政部会 TS 鳥獣管理に関わる事業委託の現状と課題～指定管理鳥獣時代の幕開けに何が起きているのか～

企画者 大橋正孝・小寺祐二・山端直人

TS-05 8:30～10:00 〈23 番教室〉

なぜ野生動物の管理は迷走するのか～管理システムの失敗学～

企画者 森元萌弥・赤坂 猛・鈴木正嗣

TS-06 10:00～11:30 〈23 番教室〉

これからの森づくりとシカとの関わり

企画者 八代田千鶴

11月5日（日） 9:00～12:00 講義棟

TS-07 9:00～12:00 〈4 番教室〉

持続可能な未来を拓くための地域に根ざした資源化を考えるー北海道の多様な取り組みを中心にー

企画者 安田章人・富田涼都・吉田正人

TS-08 9:00～10:30 〈3 番教室〉

シカ・サルの生息地管理に必要な生態学的知見とは何か

企画者 清野未恵子

TS-09 10:30～12:00 〈3 番教室〉

「野生生物と交通」に関する話題—様々な問題とその課題を考える

企画者 野呂美紗子・浅利裕伸・園田陽一・山田芳樹

TS-10 9:00～10:30 〈23 番教室〉

過密化したタンチョウ個体群のリスク低減のために

企画者 正富宏之・正富欣之

TS-11 10:30～12:00 〈3 番教室〉

国内で実施されてきた「夜間銃猟」をめぐる諸課題

企画者 伊吾田宏正・鈴木正嗣

TS-12 10:30～12:00 〈5 番教室〉

生物文化多様性のフレームワークによる野生生物管理と自然環境保全策

企画者 敷田麻実・新 広昭・須賀 丈

ポ ス タ ー 発 表

ポスター発表

11月3日（金） 13:00～18:00 総合研究棟1号館（E2501、E2502）

11月4日（土） 8:30～17:00

P-01 神奈川県県央地域における加害レベルの異なるニホンザル3群の冬期の環境選択

林 航平・金子 弥生

P-02 聞き取り調査によるニホンザル群の特定

～神奈川県ニホンザル東丹沢地域個体群、鐘ヶ岳群の事例～

難波 有希子・榊 葵・杉浦 義文

P-03 市町村アンケートを用いた全国的なサル対策の現状把握

中村 大輔・滝口 正明・光岡 佳納子・川本 朋慶・鈴木 克哉・江成 広斗・竹内 正彦

P-04 新潟県におけるイノシシの食性

嶋本 拓真・丸山 凌平・鯉沼 遥・望月 翔太

P-05 電子トリガーを用いた箱わなでのイノシシの捕獲

西村 光由・衛藤 夏葉・植田 栄仁・法眼 利幸・中 一晃

P-06 水田におけるイノシシ被害の発生と耕作放棄地化について

松村 広貴・河名 利幸・大谷 徹・赤山 喜一郎・百瀬 浩

P-07 神奈川県松田町におけるイノシシ、シカ被害対策及び捕獲の推進事例

小野 晋・唐橋 あかり・遠藤 友彦・宮畑 貴之

P-08 自然豊かな知床半島における夏期のヒグマ激やせの原因は？

小林 喬子・中村 秀次・山中 正実・伊藤 哲治・中下 留美子・ログンツェフ, A.・大泰司 紀之・佐藤 喜和

P-09 知床半島におけるヒグマの栄養状態を左右する夏期の食物と軋轢発生への影響の検討

山中 正実・下鶴 倫人・白根 ゆり・中西将尚・石名坂 豪・増田 泰

P-10 幌市街地へのヒグマ侵入防止と生物多様性保全の両立を目標とした河畔林管理活動の実践

佐藤 喜和・亀山 明子・松山 周平・中村 秀次・佐藤 久美子・宮内 泰介

P-11 霧多布湿原に生息するシカの行動と生息地選択

佐藤 瑞奈・伊藤 鉄也・吉田 剛司

P-12 獲活動に対するニホンジカの行動的反応（予報）

角田 裕志・三輪 誠

P-13 ニホンジカの牧草地侵入要因の検討および被害対策の導入効果について

秦 彩夏・塚田 英晴・鷺田 茜・光永 貴之・高田 まゆら・須山 哲男・竹内 正彦

P-14 樹木用ニホンジカ忌避剤の草本類への適用

柳澤 賢一・涌井 明・内藤 洋二・遠山 貴士・小松 研一・尾関 雅章・神谷 一成

P-15 獣害対策の効果と内容—千葉県の集落アンケートを通して—

加藤 恵里・中村 大輔

P-16 ニホンジカの農地利用頻度は作物種によって異なるか？

大熊 勲・赤坂 卓美・浅利 裕伸・柳川 久

P-17 農地のシカに景観構造が与える影響

橋本 寛治・日野 貴文・立木 靖之・村井 拓成・赤松 里香・佐藤 瑞奈・吉田 遼人・佐藤 温貴・吉田 剛司・金子 正美

- P-18 日光国立公園利用者の写真を利用した戦場ヶ原内の侵入シカ追跡
田島 美和・岩崎 真純・竹田 努
- P-19 携帯電話回線利用による天然記念物「奈良のシカ」GPS テレメトリー調査事例
鳥居 春己・樋口 高志・吉岡 憲成・樋口 幸三
- P-20 農地と後背林地におけるニホンジカの併行捕獲が農地への出没に及ぼす影響
福本 浩士・鬼頭 敦史・山端 直人
- P-21 夜間銃猟に対するシカの反応-洞爺湖中島の事例
松浦 友紀子・東谷 宗光・池田 敬・伊吾田 宏正
- P-22 鹿児島地域におけるシカの狭域管理
塩谷 克典・荒木 政明・三浦 敬紀・前田 史和
- P-23 日本産ニホンジカ有効活用に向けて:「ロクジョウ(鹿茸)」薬材種および亜種の再検討
永田 純子・大泰司 紀之・太子 夕佳・伊吾田 宏正
- P-24 現場放置によるシカ捕獲個体の処理
丸山 哲也・稲垣 亜希乃
- P-25 シカ埋設個体の埋設深度および季節の違いが出没動物種に及ぼす影響
八代田 千鶴・古澤 仁美
- P-26 捕獲鳥獣の適正かつ効率的な処理システムの構築に向けた実態調査
福田 はるか・木下 一成・鈴木 隆央・石垣 智基・山田 正人・大迫 政浩
- P-27 「シカ捕獲認証」創設から3年間の成果
東谷 宗光・松浦 友紀子・伊吾田 宏正・赤坂 猛・宇野 裕之・早稻田 宏一・伊吾田 順平・井田 宏之
- P-28 法改正および狩猟者の社会構造の変化がニホンジカの捕獲数に与える影響
ミュラー アーサー・奥田 圭・梶 光一
- P-29 ツリーシェルターを施工したスギ植栽木における樹形異常の発生状況
岡本 卓也
- P-30 沖縄県における外来種ニホンイタチの生息状況と対策
河内 紀浩・渡邊 環樹・嶋津 信彦
- P-31 マングース捕獲用新規わな「A24 改良版 II」の有効性
中川 雅允・河内 紀浩・新里 和野
- P-32 天売島のドブネズミの繁殖期と食性からみた海鳥類への影響
越宗 菜保美・竹中 康進・橋本 琢磨・矢部 辰男・吉田 剛司
- P-33 アライグマの排除を目指した罠の設置場所と時期の検討
朴 侑希・栗山 武夫・高木 俊・東出 大志・野瀬 遵・横山 真弓
- P-34 洞爺湖温泉街における特定外来生物ウチダザリガニ(*Pacifastacus leniusculus*)の分布と体サイズの動向
更科 美帆・上原 裕世・谷本 究・室田 欣弘・吉田 剛司
- P-35 北海道外来カエル対策ネットワークが目指す CEPA
鈴木 あいり・更科 美帆・坂村 武・石野 順一・笹山 学・向井 猛・森川 武弘・宮原 和智・木本 明美・高橋 恵美・岡本 康寿・工藤 知美・赤松 里香・吉田 剛司
- P-36 北海道のため池でのウシガエル(*Lithobates catesbeianus*)の食性
片岡 美葉・更科 美帆・鈴木 あいり・吉田 浩平・金澤 晋一・吉田 剛司
- P-37 小学校教育におけるアメリカザリガニ(*Procambarus clarkii*)の代替種の検討
大室 智暉・更科 美帆・工藤 知美・後藤 達彦・長谷川 理・赤松 里香・吉田 剛司
- P-38 札幌市円山動物園の来場者アンケートによる外来生物企画展に関する考察
片山 裕美子・更科 美帆・石橋 佑規・本田 直也・井本 あゆみ・野村 友美・吉田 翔悟・吉田 剛司
- P-39 岡崎市立常磐東小学校区における地域住民の野生動物に対する意識

橋本 操・市川 真旬・岩間 虎太郎・小池 則満

P-40 ロシア連邦アムール州における野生動物管理者教育

崎山 由香・センチック アレクサンドル・伊吾田 宏正

P-41 野生動物保護管理専門職の現場教育の可能性-その3

中川 元・梶 光一・大泰司 紀之・田中 俊次

P-42 大学生主体のクラウドファンディングによる鳥獣害対策

内藤 直樹

P-43 地域住民と野生動物の多様なかわりの中における獣害

太刀川 晴之・山本 信次

P-44 野生鳥獣による農業被害と営農継続意欲に関する一考-奈良県における事例-

若山 学

P-45 トキとの共生をめぐる地域ステークホルダーのインタレスト分析

豊田 光世

P-46 自然を活かす地域再生：行政文書から地域の資本を探る

三ツ井 聡美・久保 雄広・深澤 圭太・小熊 宏之

P-47 保全便益を可視化する：アマミノクロウサギツアーに関する経済分析

久保 雄広・三重野 太郎・栗山 浩一

P-48 市民参画によるシマフクロウ繁殖巣の見守り

早矢仕 有子・愛甲 哲也

P-49 近世蝦夷地における鳥類利用：ツル類と猛禽類の事例

久井 貴世・山本 晶絵

P-50 座談会からみる一般市民のネコ管理に対する態度

豆野 皓太・久保 雄広・庄子 康・柘植 隆宏・栗山 浩一

P-51 野生動物による田んぼ（稲作）への被害

遊部 久瑠美・大迫 義人

P-52 レンコンのカモ類による被害

田戸 裕之

P-53 都市域の中小河川を利用する水鳥と河川構造

金森 充晃・倉本 宣

P-54 景観構造が水田水域生態系に及ぼす影響

満尾 世志人

P-55 新潟県北部地域のウミネコの営巣状況および海上分布

荒 隆博・白井 正樹・山本 麻希

P-56 河川上流部の水位低下に伴う底生生物群集の棲み分け

荒井 岳・倉本 宣

P-57 新種カタツムリの活用事例からみた生物の資源化プロセス

松田 春菜・田代 優秋

P-58 鳥害の発生リスクの時間的変動：サギ類の飛来を例として

白井 正樹・杉本 敏文・伊藤 憲彦・門 裕之・中島 慶人・竹内 亨

P-59 北アルプス太郎山周辺におけるニホンライチョウ雛のGISを用いたハビタット解析

山田 浩輔・松浦 大悟・森 遼介・南 基泰・上野 薫

P-60 北アルプス太郎山周辺におけるニホンライチョウ雛の7月の採食資源

松浦 大悟・山田 浩輔・高須 富美子・南 基泰・上野 薫

P-61 ドローンによるジュゴンの喰み跡の確認

小澤 宏之・岩崎 誠

P-62 沖縄島でのジュゴンの喰み跡モニタリング調査

小澤 宏之・古仲 信昭

P-63 北海道留萌地域におけるゴマフアザラシの生態的特徴

湯村 朋久・小林 万里・生田 駿

P-64 飼育下におけるゴマフアザラシの親子の行動

鈴木 麻衣・佐々木 理紗・角川 雅俊・小林 万里

P-65 ピットフォールトラップを用いたニホンザリガニの捕獲手法の検討

照井 滋晴・斉藤 久・山田 悠

P-66 ニホンリス *Sciurus lis* における環境保全措置と事後調査手法の開発

園田 陽一・中村 匡聡・上野 裕介・松江 正彦・栗原 正夫

P-67 自動撮影装置の性能比較に関する研究

村林 宏・荒木 隼祐・後藤 靖興・澁谷 幸代・門崎 誠・宮地 秀仁

P-68 通信型センサーカメラ“hykecam”を用いた哺乳類モニタリングの可能性

井上 剛

P-69 スマートフォン向けアプリを活用したロードキル対策事例

可児 里砂

P-70 先住民自らボルネオの生物と文化の多様性を伝えるメディア構築プロジェクト

上林 洋平・早岡 英介

P-71 北海道東部、厚岸町における持続可能な漁業・養殖業のあり方の検討

小林 由美・但馬 英知・スウエケ エマニュエル アンドリュー・仲岡 雅裕

P-72 刺し網漁による海鳥の混獲 ～防止策の効果の検証～

佐藤 真弓・山本 裕・Rory Crawford

P-73 北海道の都市近郊域に生息するキタキツネの餌資源利用とエキノコックス感染状況

池田 貴子・平尾 聡秀

P-74 福島県原発避難区域内における人間の移出が哺乳類相の日周活動性に与える影響

池田 敬・奥田 圭・奥田 加奈